

中川区「戸田まつり」

中川区の戸田地区では、300年以上の歴史を持つ戸田まつり（名古屋市指定無形民俗文化財）が行われています。毎年10月の第1土・日曜日に行われているとので、10月7日（日）に祭りにお邪魔しました。

戸田地区は、古くから農業が盛んに行われた地域で、平安時代から「富田荘（とみたのしょう）」という荘園があった地域です。鎌倉時代には、北条時宗が建立した円覚寺に米が納められていました。円覚寺に残る「富田荘絵図」には、鎌倉時代の戸田周辺の様子が描かれており、今に伝わる地名を見ることがもできます。

戸田まつりは、元禄15年(1702)に始まり、寛政期(1789～1801)には現在のような山車を出す祭りになったとされています。山車は一之割から五之割の五輛があり、今年は一之割、三之割、五之割の三輛が曳き出されました。五輛すべてが揃うのは四年に一度で、次回は平成26年とのことです。

かつては、今と比べて米の価値が高く、米の生産で栄えた戸田地区では、祭りに豪華な山車を出すことができたそうです。農業が盛んだった土地の特徴は祭りにも現れており、農業の所作を取り入れた道踊りも行われます。



一之割の山車



三之割の山車



五之割の山車

山車の曳航にともなうお囃子や道踊りには子どもたちも参加しますが、その多さに驚かされました。各地で祭りの担い手不足が懸念される昨今ですが、戸田地区では、JR 関西本線の春田駅開業（平成 13 年）や土地区画整理事業の完了（平成 22 年）により、子育て世代の転入が増加し、戸田まつりに参加する子どもたちが急増したそうです。この子どもたちが、伝統を受け継ぎ、将来の戸田まつりを担っていつてくれることを願わずにはられません。

(S.H.)



道踊りに参加する子どもたち